平成30年度江戸川大学国立公園研究所の活動について（報告）

Ⅰ　内外の国立公園、自然公園に関する資料の収集と整理

- 平成30年度より研究所内の所蔵資料のリストをHPで公開し、閲覧・貸出を行っている。また引き続き寄贈された資料等の整理、分類作業を行っている。
- 環境庁OBの島田直幸様より、自然環境保全基礎調査他、貴重な資料をお譲り頂いた。
- 環境省自然環境局総務課国民公園室の宇賀神知則様より国立公園関連の貴重な古書・地図等の資料をご寄贈頂いた。

Ⅱ　国立公園研究所特別講座の実施（駒木学習センターとの共同企画）

平成30年度も継続して研究所員による駒木学習センター講座を開講した。

1．新・国立公園シリーズ「国立公園の保護を考える」―自然の保護と風景の保護―

講　師：宮地信良　客員研究員

開催場所：学内講義及び日光現地ツアー

内　容：自然公園は、自然風景のすぐれた場所を保護し、それを国民のために利用する制度である。自然の保護と風景の保護はどこが違うのか。そして、保護の考え方や方法にはどのようなものがあるか、様々な事例を取り上げながら考えてみる。※定員20名に達した。

前期 第1回：2018年5月28日　［講義：学内］

自然公園の保護―その様々な様相―

生態系、風景、生物多様性等自然の捉え方には様々な見方がある。ここでは保護と利用という両面を持った自然公園の保護とは何か、事例を中心に考える。

前期 第2回：2018年6月8日　［現地ツアー：日光］様々な保護の例を見る

日光国立公園の日光地域や栗山地域を訪れ、手を加える保護、複合景観、保護規制の実態など、いくつかの事例を現地で見て考えてみる。栗山地域土呂部の半自然草原では、「手を入れる保護」活動として草刈りを実際に体験する。

2．初級者向け野鳥の楽しみ方

～初夏は鳥たちが懸命にさえずる季節。あなたも夏鳥のさえずりを楽しんでみませんか～

講　師：中島慶二　研究所長

開催場所：学内講義及び筑波山

内　容：身近な野生動物として親しまれている野鳥。美しい姿や声、かわいらしいしぐさ等、野鳥の観察は楽しくて飽きることがない。野鳥の見つけ方や識別にはある程度の慣れや知識が必要である。講義ではそのための基礎知識や生物と環境の関係について学び、望遠鏡を実際に扱ってみる。筑波山探鳥会のフィールドワークでは、山頂付近と中腹の遊歩道を歩きながら標高と植生の異なる環境でどんな野鳥が生息しているか、東南アジアから渡ってきた夏鳥を中心に観察する。　※定員20名に達した。

前期 第1回：2018年4月21日　［講義：学内］

―野鳥の渡り―

野鳥という生きものの特徴や渡りの習性を学び、キャンパス内の屋外で実際に双眼鏡を扱って観察動作に慣れる。

前期 第2回：2018年5月19日［現地ツアー：筑波山探鳥会］

―夏鳥のさえずりを楽しむ―

筑波山頂周辺及び中腹で夏鳥を中心に野鳥を実際に観察する。森での野鳥観察は姿よりも声での判別が勝負。森の小鳥類のさえずりを楽しむ。

3．新・国立公園シリーズ「国立公園の利用」―自然の保護と風景の保護―

講　師：宮地信良　客員研究員

開催場所：学内講義及び日光現地ツアー

内　容：自然公園は、そのすぐれた風景や自然を国民の健康や休養、教育などのために活用することが求められている。最近のICT化の進展や人口の大都市集中といった社会的変化を背景に、国立公園の利用のニーズもかつてと変わってきている。この講座では国立公園の利用の問題点と今後のあり方について考える。※定員20名に達した。

後期 第1回：2018年9月26日　［講義：学内］

―利用環境の保全と新たな国立公園の役割―

マスツアーとエコツアー、施設型利用と非施設型利用、ガイドツアー等、国立公園の利用といっても様々な形がある。利用の状況とその問題点、展望を考える。また、非常に重要な利用環境の改善について事例を通して考えてみる。

後期 第2回：2018年10月3日　［現地ツアー：日光］

―利用環境保全の現場を体験する―

日光国立公園の利用環境の改善対策の現場を歩いて考えてみる。交通規制が行われている草紅葉の小田代ヶ原やパークアンドバスライドの試行地等を訪れる。

4．初心者向け野鳥の楽しみ方

～冬はバードウォッチングに最適な季節　あなたも楽しんでみませんか～

講　師：中島慶二　研究所長

開催場所：学内及び利根運河

内　容：冬は野鳥観察に最適なシーズンである。木々の葉が落ちて鳥を見つけやすく、また冬の澄んだ空気に響く鳥の声は、より一層美しさが引き立つ。講義とフィールドの2部構成で、初級者向けに楽しく観察するコツを伝授する企画。※定員20名に達した。

第１回：2018年12月22日　［講義：学内］　野鳥という生きものの生活や特徴を学び、双眼鏡の扱い方、環境の中でいかに早く見つけるか、そのコツを伝授。

第２回：2019年1月12日　［フィールド：利根運河］　利根運河周辺で冬鳥を中心に野鳥を実際に観察。観察しやすいカモ類から始め、セキレイ類、ホオジロ類、ツグミ類、カワセミ、カワラヒワ等、前年度では31種類の鳥を観察することができた。

III フォーラム・講演・大学駒木祭参加等による啓発活動

1　ホスピタリティ・マネジメント学会

日　時：2018年8月25日(土)　14時40分～16時40分

場　所：江戸川大学駒木キャンパス　D棟３階351教室

登壇者：株式会社ピッキオ　ディレクター　楠部真也氏

日本ホスピタリティ・マネジメント学会長　山本壽夫(コーディネーター)氏

日本ホスピタリティ・マネジメント学会副会長　加地照子氏

江戸川大学現代社会学科長　土屋　薫

同国立公園研究所長　中島慶二

同社会学部現代社会学科教授　崎本武志

内　容：本学にて、現代社会学科及び国立公園研究所共催で日本ホスピタリティ・マネジメント学会の第27回全国大会が開催され、「自然環境共生とホスピタリティ・マネジメント」を統一論題として議論した。また、楠部氏による基調講演「軽井沢における持続可能な自然観光の取り組み」を行った。

2　江戸川大学駒木祭2018国立公園研究所主催シンポジウム
「ピーターラビットとナショナル・トラストをめぐって」

日　時：2018年11月3日(土・祝)　13時30分～15時
場　所：江戸川大学　B棟1階　メモリアルホール
主　催：国立公園研究所
共　催：江戸川大学社会学部現代社会学科・駒木学習センター
登壇者：河野 芳英氏(大東文化大学英米文学科教授)
　　中安 直子氏(公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会　総務部長)
　　小高 静子氏(ながれやまガーデニングクラブ花恋人(カレント)会長)
司　会：土屋　薫　(江戸川大学現代社会学科長)
内　容：ナショナル・トラスト運動に精力的に取り組まれた故木原啓吉名誉教授が残された多数の資料が2016年に本学の国立公園研究所に寄贈され、「木原文庫」として整理し、所蔵リストを作成して研究所のホームページで公開している。故木原名誉教授が尽力された我が国のナショナル・トラスト運動について、「市民による住みやすい環境づくり」という観点で捉えなおし、その考え方を後世につないでいくためには何が必要かを考察する。

　ここでは、イギリスで大成功を収めたピーターラビットが象徴するナショナル・トラスト運動を、イギリス本国と我が国とのありかたを比較・再考し、よりよい環境のつくりかたと、これからの発展的な市民活動について考えた。

Ⅳ　国立公園に関する研究等の実施

1　論文・論説・研究報告等

(1)油井正昭
　昭和初期の国立公園指定における内務省の区域設定と国立公園委員会の審議に関する論考
(2)親泊素子
　ニュージーランドの国立公園～トンガリロ国立公園、その成立の真実～
(3)中島慶二
　平成江戸川版現代語訳「国立公園法解説」(下)
(4)佐藤秀樹
　バングラデシュ・シュンドルボン(The Sundarbans)周辺における住民の持続可能なエコ・グリーンツーリズム開発の阻害要因に関する考察
　～社会的包摂へ向けた地域体験型観光の実現を目指して～

2　雑誌「国立公園」への寄稿

連載第1回　平成30年9月号　研究所と所蔵資料の紹介　　中島慶二・高橋恵美
連載第2回　同10月号　100年前の国立公園論　　中島慶二
連載第3回　同11月号　オーストラリア・ヴィクトリア州の国立公園誕生に関する研究
　　川辺太郎(本学現代社会学科卒業生による卒論要約)
連載第4回　同12月号　国立公園の保護と利用とは？　　伊藤太一
連載第5回　平成31年1月号　昭和6年出版『国立公園法解説』を読む　　中島慶二
連載第6回　同3月号　営造物(制)と地域制のルーツ　　伊藤太一

Ⅴ　その他

1　国立公園研究所年報第3号を発行し、関係者へ配布した。(11月)

2　国立公園研究所調査研究スカラシップについて

平成30年度には学生からの貸与希望はなし。

3　休暇村協会からの寄付と学生支援について

平成29年度末、一般財団法人休暇村協会から、国立公園に関する研究を推進している江戸川大学の教学の理念に賛同するとして、本学に対して100万円のご寄付を賜った。国立公園研究所は下記の通り学生への支援を行っている。

- 江戸川大学社会学部現代社会学科の在学生(2年生以上)を対象とし、学生の勉学活動に必要な旅費の一部を定額で支援する。
- 支援額は定額とし、1回の旅費で1万円を超える国内旅費に対して5千円、4万円を超える海外旅費に対して2万円とする。支援は在学中に一回のみとし、支援を受けた学生はその後受給資格を失う。
- 平成30年度には、現代社会学科海外専門研修(台湾：太魯閣国家公園・陽明山国家公園)に参加した学生8名を対象に支給した。

4　自然公園財団との業務契約について

平成30年4月より、一般財団法人自然公園財団と、江戸川大学国立公園研究所の間で業務契約を結んだ。

業務内容：

①自然公園財団出版物の監修　(中島慶二研究所長による)

- 日本の国立公園

  日本の国立公園は、2017年に奄美群島国立公園が加わり、34ヶ所となった。それらすべての最新情報を追加した増補改訂版。
- パークナビシリーズ　霧島
- パークナビシリーズ　浄土平・裏磐梯

  国立公園を案内するガイドブックとして、既刊の「パークガイド」シリーズをリニュアルした、より手に取りやすい「パークナビ」シリーズが刊行された。

②雑誌「国立公園」への定期寄稿：平成30年9月号以降、「国立公園」に江戸川大学国立公園研究所関係者の寄稿を掲載するコーナーが設けられた。本号に転載されている。